石川丈山と都築弥厚の里を歩く

2005.6.7

６月７日久しぶりにウォーキングに出かけた，場所は安城市の和泉町。丈山苑とその界隈を散策し、安祥城跡公園にある歴史博物館と埋蔵文化財センターを観て回った。

風雅な世界「丈山苑」

竹やぶの続く小道を行くと小さな門がある、中に入ると緑の楓をはじめ多くの木々がこんもりと茂り脇には水が流れている。渡る風もひんやりと心地よい、夏では尚のことだろう。そんな小道を通り刈り込みの石段を登ると詩仙閣だ。先に庭を巡って、その後お抹茶をいただくことに.....。

石川丈山とは

江戸時代の初め、武士を捨てた石川丈山が京都一乗寺に建て、終の棲家とした詩仙堂。丈山苑はそのイメージを生誕地和泉の地に再現したものです。ここ丈山苑の核となる詩泉閣には、狩野探幽の画、丈山の賛と伝えられる三十六詩仙の額(複製)がずらりと掲げられています。ほかにも楷書体の書が掲げられ、丈山の感性を偲ぶことができます。
そして詩仙の間からながめる庭園は、唐様庭園と呼ばれるものとか。難しい呼び方は別にして、ここに座ると心落ち着く想いにしばし時を忘れる。白砂の庭とツツジの刈り込みはよくマッチして、和の世界に浸ること請け合いである。

唐様庭園

三十六詩仙

お抹茶をいただく

さらに、さわやかな風と一服の抹茶はことのほかおいしい。お菓子は「あじさい」、なるほど見ればそのようなイメージである。
庭園は唐様庭園、回遊式池泉庭園、枯山水庭園を組み合わせた本格的なものだそうな。この丈山は林羅山を介して儒学を学び、自分の進むべき道を見つけたといわれる。
そして広島の浅野家に再出仕するが、５９歳で洛北一乗寺に詩仙堂を開き悠々自適の文人として９０歳の天寿を全うする。
漢詩人であり、作庭家でもあり日本における煎茶の開祖と言われている。

詩仙の間

丈山の像

明治用水開削の功労者「都築弥厚」

丈山苑から５分ほどの所に弥厚公園がある、そこには弥厚の銅像とその功績をたたえる碑が建っている。１７６５年富豪であり名士の家に生まれた弥厚は、水に乏しく水田開発が困難な様を見て矢作川の上流から水を引き、ここを灌漑，開墾することを思い立ちます。
長い年月をかけて測量を行い、具体的な用水計画を立案します。しかし、農民や領主たちからの激しい反対にあい、計画を実現できぬまま亡くなります。その後弥厚の計画は明治に入り、岡本兵松と伊予田与八郎の二人が引き継ぎます。そして１８８０年(明治１３年)には、現在の明治用水が完成し後に日本のデンマークと言われる豊かな農業地域へと変貌を遂げていきます。
あとから訪れた歴史資料館で見ると、弥厚の用水計画は２本でしたが現在はそれに刈谷ルートが加わり３本の水路が流れています。

弥厚の銅像

和泉八剣神社

弥厚公園をあとにして、歴史の散歩道を一巡りしょうと和泉八剣神社をめざす。田植えの終わった田んぼの脇を歩き、しばらくすると立派な鳥居が建つ神社に到着した。ここは地域の鎮守社として江戸時代に造られたという、そして額絵馬は都築弥厚の一族が奉納したものとされる。

個人が管理する丈山文庫

次は神社を出て丈山文庫へ向かう、地図を見るとパンフレットにはない神谷家が載っている。しかも同じ区画内に丈山文庫と神谷家がある、おそらく昔の庄屋で丈山文庫の管理をしているのも神谷家と思われる。
しばらく歩くと黒い板塀の続く大きな屋敷が現われた、玄関にはセコムの鑑札?がかかっている。表札は間違いなく神谷となっていた。
神谷家からしばらくで丈山文庫につくが、土日しかオープンしていないのだ残念。ところがパンフレットには土日月火としてあった。よくあるミスさ。

都築弥厚の眠る本龍寺

丈山文庫から本龍寺へ向かう、狭い道筋は昔のままであろう、でも立派な家がたくさん建っている。
そんなあちこちに小さな祠がいくつか見られた。これらも立派な文化財でありこの地域にとっては、なくてはならないものであったはず。今のうちにいわれなどを調べて、分かるようにしておくことが大切なことと思う。年寄りがいなくなると、さっぱり分からなくなってしまう。

立派な祠

この祠は家の中に納まっている

立派な銀杏の木や、枝振りのすばらしい松ノ木がみごとなお寺さんだ。さっそく弥厚のお墓をさがしてみる.....案内の石柱が建つお墓を見つけた。一族のお墓の中に、色が黒褐色で無記名の、立ちの低い石碑があった。これが弥厚のお墓のようだ。
パンフレットには、弥厚はこの本龍寺に山門や土塀を寄進したという記録もあり、篤志家の一面をもっていたことがうかがえます。

弥厚の墓

本龍寺

今も残る道標
本龍寺から丈山苑に戻る途中に、懐かしの道しるべが残っている。それには、「右　にしを　左　をかざき」の文字が読めた。

思わぬハプニングが.....

　これで歴史の散歩道を一巡りした、せっかく和泉にきたのでお昼は「そうめん」のドリンク付ランチを食べた。
ところが食べ終えてアイスコーヒーが運ばれてきたとき、悲劇が起こった。二人分をテーブルに置き、次の二人分を持ってきた時おねえさんが、小さめのお盆にのったかっこいいグラスを倒してしまったのだ。テーブルから50cm 程の高さからこぼれたコーヒーは、妻の向かいに座っていた友の奥さんのブラウスを直撃した。
妻がパーカーのようなものを持っていたので、それに着替えてすぐ水洗いをした。そのおかげで全員の飲み物代はサービスしてくれた。帰りにはクリーニング代も。　このあと安祥城跡公園へ移動した。

出土土器が語る古の暮らし

埋蔵文化財センターを初めて訪ねた。立派な建物に入るとガラス越しに整理作業をする女性、土器の復元作業をする女性の姿があった。

煮炊き用の土器

多くの出土品を収納する倉庫

希望者には説明しますとあったので依頼した。伊藤さんというお兄さんが倉庫をあけて案内してくれた。
安城では鹿乗川にそって古墳が発見されて、２６０箇所の遺跡が知られているという。出土品には木製品もあり、階段とか井戸の枠などが棚にあった。一番勉強になったのは、土器でも下部に台がついている物は、直接火にかけて煮炊きに使う物ということを知った。
かまどがなくてもいいわけで、さすがよく考えていると感心した。　これまであまり関心がなかっただけに、とても興味深く観て回ることができ有意義であった。そして安祥城跡を一巡りした。本丸跡は大乗寺、二の丸跡は八幡社があり、三の丸跡には歴史博物館が作られていた。今回もいろいろな勉強が出来楽しい散策ができた。

歴史博物館の庭にて